

AVC-Intra による階調豊かなキメ細かい映像 フィルムカメラ以上のメリットも

テレビドラマ（NHK BS hi ほか）
「ワイルドライフ－国境なき獣医師団 R.E.D－」
撮影監督：高間賢治氏

□ 1

2008年3月にNHK BS hiで放送されたテレビドラマ「ワイルドライフ－国境なき獣医師団 R.E.D－」の撮影には、メモリーカード・カメラレコーダー“P2 cam”「AJ-HPX3000G」が使用されている。同作品は藤崎聖人原作の漫画「WILD LIFE」をドラマ化したもの。第1話「熱血獣医師誕生！」（監督：川島透氏）ではタイ、第2話「パンダの涙」（監督：塙幸成氏）では中国四川省臥竜でロケーションが行われた。撮影監督は高間賢治氏。

撮影にはAJ-HPX3000GとVARICAM「AJ-HDC27H」の2台を使用し、AJ-HPX3000Gでの撮影ではAVC-Intra100を選択。VARICAMとともにFILMLIKE3ガンマで撮影している。P2カードからハードディスクに取り込んだAJ-HPX3000Gの撮影素材とVARICAMのテープ素材の両方をパナソニック映像でApple ProRes 422 HD コーデックに変換し、さらにそこからオフライン編集用のSDデータを作成。それをパナソニックDUに持ち込み、Final Cut Proでオフライン編集し、そのProjectを用いてパナソニック映像のiQでオンライン編集、D5完パケを作成した。

なお、同作品の製作はアジア・コンテンツ・センター、ギャガ・コミュニケーションズ、アン・エンタテインメントの製作委員会で、NHKでは初めてドラマを予約放送権購入したケースだという。NHK BS hiで放送された後、DVD化されたほか、NHK総合でも短縮版が放送されている。

撮影監督を努めた高間賢治氏（日本映画撮影監督協会）

○これまで、AG-DVX100やAG-HVX200などを使って様々な映画やドラマを撮影してきました。「AJ-HPX3000G」は、VARICAMやAG-HPX555などとボディやスイッチ類はほぼ共通ですから、実際の手触りなどに違和感はありませんでした。今回はAJ-HPX3000GとVARICAMの2台による撮影でした。2台のカメラはスペックも性格も違いますから、主にロングはAJ-HPX3000Gで、アップはVARICAMで撮ることとし、VARICAMの



撮影風景

□2

60p撮影やバリアブルフレームの機能も十分に活用しました。

○また、フィルム化の計画がなかったので、2台とも FILMLIKE3 ガンマを選択しています。レンズは、フォーカス移動しても画角の変動がない小型・軽量のズームレンズ「HJ8x」(キヤノン)を使用しています。AJ-HPX3000G の撮影では AVC-Intra100 を使いました。すごくキメが細かく、階調が豊かであるという印象です。今回も出演者の肌がしっとりと表現でき、森の木が揺れるような細かい描写などで高い効果が得られています。

○「ワイルドライフ－国境なき獣医師団 R.E.D －」のロケでは動物の撮影もあったことから、16GB と 32GB の P2 カードを合計 10 数枚持つて行きました。ミスを防ぐため、1 日 5 枚をワンセットにして、全部撮り切らなくても次の 5 枚と交換しました。1 日の撮影が終わると P2 mobile 「AJ-HPM100」を使って素材をハードディスクに取り込みました。日本に持ち帰るハードディスクに加え、現場に保管しておくハードディスクも用意するバックアップ体制で万一の場合に備えています。

○デジタルカメラがフィルムカメラに取って代わろうとするなら、少なくともフィルムカメラと同様のことができる必要はあると思っています。私が VARICAM や AJ-HPX3000G で違和感なく撮れるのは、F-Rec や FILMLIKE3 のガンマカーブが非常に優れているからです。また、使い方によってはフィルムと同等、もしくはそれ以上のこともできる。フィルムの画質を保った上でコントラストの調整が可能であり、フィルムエンジンも不要です。さらに、時間が許す限り心ゆくまで納得するまで撮ることができるコスト面も P2HD の大きなメリットだと思っています。

